



見頃の薬用植物

学生さん、ネムノキの生活態度を見習って、早寝早起きし、授業に遅刻しないでください。

■クチナシ

Gardenia jasminoides

生薬名：山梔子（さんしし）

薬用部位：果実

薬効：消炎、排膿、利胆、止血、鎮静



街路や庭先で梅雨の時期に白い大輪の花を咲かせる。甘い香りを周囲に放ち、真夜中になると一層強まる。これは受粉のために昆虫を引き寄せるからだと考えられている。

クチナシの名の由来は「口無し」で果実が成熟しても烈開しないことによる。

古来、染め物の黄色染料として用いられている。食用として、お節料理の栗きんとんや沢庵の色づけに使われる。

「ガーデンア」の名で八重咲きのものなど多種の園芸種があるが、実がならず薬用とされない。



■ネムノキ

Albizia julibrissin

生薬名：合歡皮（ごうかんひ）

薬用部位：樹皮

薬効：鎮痛、鎮静、強壮、利尿



夕方に刷毛に似た糸状の花を咲かせる。夜になると、葉が重なり合って眠るようにゆっくり閉じ、早朝にはまた葉を開かせるので、「ネムノキ」と称されるようになった。

地方では七夕の日に「眠り流し」といい子供の健やかな成長を祈願する風習がある。子供たちがネムノキの葉や豆の葉で身体をこすって「ネムの葉流れろ、豆の葉留まれ」と唱えて川に流す。昔、眠気は悪しきものと考えられていたので流し、豆はまめに暮らす事に掛けて留まってほしいとの願いが込められている。

花（生薬名；合歡花）には、精神安定・健胃作用があり薬膳などで用いられる。